

FFRangio Lesion Impact の予測精度の検討 ―実測 PCI 後 FFR との比較―

¹岐阜県総合医療センター牧田 拓也¹、清水 円香¹、大橋 志穂¹、宮川 真帆¹、若山 和馬¹、猪島 裕貴¹

【目的】FFRangio は冠動脈造影から FFR を算出するモダリティである。Lesion Impact 機能は、狭窄がなくなったと仮定した予測 FFRangio 値を算出できるが、その予測精度は十分検証されていない。本研究では、Lesion Impact による予測 FFRangio 値と実測 post PCI FFR の一致性を評価し、その有用性を検討した。【方法】pre FFR、pre FFRangio および post PCI FFR を測定したステント留置症例を後ろ向きに解析した。主要評価項目は FFR 0.80 を閾値とした残存虚血の有無の診断一致率、副次評価項目は post PCI FFR と予測 FFRangio の相関および Bland-Altman 解析による一致性とした。【結果】14 例を解析した。post PCI FFR と予測 FFRangio の平均値に有意差は認めなかった (0.85 ± 0.10 vs. 0.85 ± 0.09 , $p=0.96$)。post PCI FFR は 5 例で 0.80 以下、9 例で 0.80 超となった。主要評価項目である診断一致率は 100%であった。post PCI FFR と予測 FFRangio は強い相関を認めた ($r=0.88$, $p<0.01$)。Bland-Altman 解析では平均差 -0.001 、95%一致限界 $-0.09 \sim 0.09$ と良好な一致性を示した。【結語】FFRangio Lesion Impact による予測 FFRangio 値は、post PCI FFR と高い診断一致率および良好な一致性を示した。本機能は PCI 前に治療効果を予測し、PCI 戦略の立案を支援する有用なツールとなる可能性が示唆された。